

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	872000963		
法人名	有限会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	つくば市上広岡503-8 (電話) 029-857-8255		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 16人, 非常勤 6人, 常勤換算	3.75人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(90,000 円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	14 名	男性 4 名	女性 10 名
要介護1	3	要介護2	5
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	1
年齢 平均	82 歳	最低	63 歳
		最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設当初より、「利用者が家庭的な生活の中で市民生活の継続」を理念の一つに掲げ、地域の人達に理解を求める働きかけを行っており、花見や納涼祭を開催したり、利用者と職員で自警団を組織し、パトロールを行うとともに、地域の缶拾いなどの清掃活動にも協力している。
 その他、つくば市内の関係者により地域密着型サービス連絡会を設立するとともに、代表となって市との連絡調整や事業所間の連携・向上に向けて積極的に取り組んでいる。
 ホームでは、利用者と職員がコミュニケーションをとることを大切にし、その中で知りえた情報を付箋を活用した「ケアネット」という事業所独自の方法で利用者一人ひとりの理解や意向、希望を把握するとともに、介護計画や日常支援を行う際に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価で得られた課題について、カンファレンスで話し合い、改善できるところは改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者とユニットの代表者が意見を出し合って作成しているが、自己評価するにあたり、職員に意見を求めることは、サービスの提供状況等を確認することにもつながるので、自己評価を職員全員で取り組む仕組みづくりを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的で開催し、ホームの運営状況等の報告はもとより、ホームの運営やサービスの実施状況について意見交換を行っている。 会議で出た認知症に関する研修会の実施の要望について、実現に向けた取り組みを地域の代表者とともに検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの受付窓口や担当者を配置するとともに、国民健康保険団体連合会などの連絡先を重要事項説明書に明示している。 また、苦情や意見の対応におけるケアに関する問題は、職員研修を実施するとともに、実施状況等について家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事の一端として、花見や納涼祭をホーム主催で開催し、地域の人々を招待している。 また、利用者や職員で自警団を組織し、パトロールを行うとともに、地域の缶拾いなどの清掃活動に協力している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは開設当初より「利用者が家庭的な生活の中で市民生活の継続」を理念の一つに掲げ、地域の人達に理解を求める働きかけを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を申し送り時に読み上げたり、名札の裏面に掲示し、共有している。 カンファレンスなどで理念の実現に向けた話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の一端として、花見や納涼祭を開催し、地域の人々を招待している。 また、利用者と職員で自警団を組織し、パトロールを行うとともに、地域の缶拾いなどの清掃活動に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で得られた課題について、カンファレンスで話し合いを行い、改善できるところは改善している。 自己評価は、管理者とユニットの代表者が意見を出し合って作成している。	○	自己評価をするにあたり、職員に意見を求めることは、サービスの提供状況等を確認することにもなるので、自己評価を職員全員で取り組める仕組みづくりを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、ホームの運営状況等の報告はもとより、家族の代表や地域の方々から認知症に関する研修会実施の要望や意見交換を行っている。 会議で出た要望等について、実現できるよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はつくば市内のグループホームの利用状況等を取り纏め、市の担当課に報告している。 また、市内の関係者により地域密着型サービス連絡会を設立し、定期的な会議に担当者を招き、意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでは、家族が定期的にホームを訪問する機会を設けており、その際に利用者の暮らしぶり等について報告している。 また、都合等により訪問できない家族には、電話での連絡やホームたよりを送付し報告している。	○	金銭管理の報告について、家族等の了承を受けた場合は、認めサインや押印を受ける取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの受付窓口や担当者を配置するとともに、国民健康保険団体連合会などの連絡先を重要事項説明書に明示している。 また、苦情や意見の対応、ケアに関する問題については、職員研修を実施するとともに、実施状況等について家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は、事前に職員を採用し、引継ぎできるよう配慮している。 また、設置法人内での職員交流を行うとともに、ホーム内の職員による食事会の開催や管理者が相談に乗るなど、ストレスを溜めない配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員に周知するとともに、職員の経験に応じた外部研修に派遣している。 資格取得に関する勉強会や介護に関する内部の勉強会を定期的実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が代表者となって、つくば市内の地域密着型事業所による連絡会を設置しており、運営に関する情報交換や職員研修などを企画して事業所間の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者や家族がホームに来所したときは、本人や家族と相談やホームの案内、説明を行っている。 また、本人からの希望や意見を尊重して、馴染みながらサービスが利用できるよう配慮している。	○	利用予定者がホームや他の利用者との関係づくりができるよう、体験入居などの環境づくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性職員が利用者から調理の仕方を教えてもらったり、野菜作りの指導や昔話を聞くなど、介護するばかりでなく、利用者との支えあって生活している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に利用者の思いや暮らし方の希望を聴取し、記録するとともに、利用者と職員がコミュニケーションを図る時間を設け、事業所独自の取り組みである「ケアネット」に、聴取した事項について記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「ケアネット」で把握した希望や家族の意見等を聞き、担当職員との意見交換を行い、介護計画を作成している。 利用者一人ひとりができる事から取り組めるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に応じて3、6ヶ月の期間を定めて満了時に「ケアネット」や経過記録等に基づきモニタリングを行うとともに、ケアカンファレンスを開き、職員の意見を聞いて、介護計画を見直ししている。 また、利用者の状態に変化があったときの随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得し、訪問看護事業所と連携をはかるとともに、利用者の希望に応じて通院介助を行っている。 また、家族の相談に乗るとともに、地域の方の福祉ニーズを把握している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時にかかりつけ医もしくは協力医療機関のどちらかを選ぶことができる。 また、協力医療機関とは、訪問看護の定期的な訪問のほか、夜間の診察が受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは職員からの希望により、終末期の対応に取り組んでおり、医師や看護師との連携を充分にとっている。 本人や家族に重度化した場合のホームの方針や対応について話しをしている。	○	利用者が重度化した場合等について、職員間で方針を共有することが望まれる。 また、マニュアルに基づき、利用者や家族へ説明するとともに、同意を得られるよう様式を作成し、様式に基づいた説明や確認する取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの誘導や入浴時の扉の配慮など、利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。 また、契約時に個人情報に関する取扱いを家族に説明するとともに、「個人情報の使用について」を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ケアネット」等で利用者の生活歴や得意なことを把握するとともに、カラオケや畑仕事、自警団のパトロールなど、利用者のペースで生活できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の得意な利用者には調理の手伝い、配膳や後片付けなど、できることに取組んでもらえるよう場面づくりをしている。 また、食事の時は職員が利用者の間に座り、会話を楽しむなどの雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った、入浴支援に取り組むとともに、入浴を拒む利用者には、清拭や足浴などを行っている。 また、利用者が重度化等に対応するため、入浴を補助するリフトを準備している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「ケアネット」等で利用者の生活歴や得意なことを把握するとともに、新聞や書籍、カラオケや畑仕事、自警団のパトロールなど、利用者に応じた楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	初詣の参拝やつくば市の花壇作り、運動会などに参加している。 また、天気の良い日は外気浴や草取りなどの畑作業、買い物や自警団の巡回などで外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、利用者の行動特性や徘徊の原因を把握しており、見守りや外出時の連携を図りながら、利用者の行動を抑制することのないケアを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。 また、地域の消防団に火災時の消火や利用者の避難について、協力が得られるよう依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好調査を行い嗜好を把握するとともに、設置法人の栄養士に献立のアドバイスやカロリー計算を依頼している。 利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに水槽や書棚を設置しており、金魚の飼育や利用者が読む小説や雑誌を置くとともに、季節に応じた花や植物を飾っている。 廊下の一角に長椅子を設置しており、利用者等が休憩したり、会話する場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた化粧台などの家具や家族の写真を持ち込むとともに、本人や家族、職員が協力して居室の配置や洋服の衣替えを行っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。